

ペルー チャンカイの巨大港が操業を開始

[FreshPlaza 2024年11月19日](#)

2024年11月14日のチャンカイ港の正式開港は、国際海運貿易の転換点となった。この港は、リマの北80キロでペルーと中国が共同で開発した野心的なプロジェクトであり、南米とアジアの間の貿易ルートを変革し、2つの地域間の経済的及び物流上の関係を強化する戦略的結節点として浮上している。

ペルーのディナ・ボルアルテ大統領と中国の習近平国家主席は、二国間協力の象徴として、また中南米からアジア市場への輸出の玄関口としてのこの港の重要性を強調した。36億ドル以上の投資によって推進されたこのメガプロジェクトは、取扱量の大きいコンテナターミナル、自動化された倉庫、最適化された陸上アクセスなど、最先端のインフラを備えている。

チャンカイ港は、大量の貨物を取り扱うように設計されており、当初の年間取扱能力は100万TEU(20フィートコンテナ相当)に達すると予想されている。この開港は、ペルーをこの地域の模範的物流拠点として位置付け、中国、日本、韓国等の主要なアジア市場への海上輸送の時間とコストを削減することを目指している。

しかし、このプロジェクトには論争がないわけではない。同港は中国国営のコスコシッピング社と提携しており、同社が同港の運営を担当するコンソーシアムを率いているため、米国では懸念が生じている。一部のアナリストは、このインフラが南米における中国の影響力を強固にする地政学的な意味合いを持つ可能性があると考えている。

疑問はあるものの、チャンカイ港は、ペルーの生産部門、特に鉱物、農産物、水産物の輸出において、特別なチャンスを意味している。さらに、このプロジェクトは、何千もの直接的及び間接的な雇用を生み出し、地域経済を後押しすることを約束している。

今回の開港により、ペルーは港湾インフラの近代化に向けて確固たる一步を踏み出し、世界貿易の主要プレーヤーとしての地位を確固たるものとし、南米とアジアの架け橋としての役割を強化する。チャンカイ港は、地域の物流を再定義するだけでなく、経済成長と国際統合の新たな展望を開くものである。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

ペルー ベトナム向けマンダリン輸出にゴーサイン

[FreshFruitPortal 2024年11月20日](#)

ペルー政府は、農業開発灌漑省を通じ、ベトナム向け生鮮マンダリンの輸出に関する植物検疫プロトコルが確立されたと発表した。

この貿易上の新しい決定は、ペルーとベトナムの植物検疫当局間の技術的会合の結果として行われた。この会合では、SENASA(ペルー税関管理局)の技術代表団が、ブルーベリーのベトナムへのアクセス獲得に向けた取り組みの進捗状況についても説明した。ブルーベリーの輸出は現在、病害虫リスク分析の段階にある。

ベトナム代表団は、マンダリンの要件が確定すれば、ブルーベリーの手続きは速くなるだろうと述べた。

植物検疫プロトコル

この合意に基づき、ベトナムの植物検疫当局は合意された要件を公表し、SENASAは要件のリストをベトナムへのマンダリン輸出を開始することを許可される予定の農場と梱包施設に伝達する。

2023年の出荷シーズンには、ペルー産柑橘類は40カ国以上に輸出された。中でも米国が主要市場であり、総輸出の41%を占めた。

最も需要の高い柑橘類はマンダリンで、19万トン以上が輸出され、主な市場は米国、オランダ、中国であった。